

視察報告

12月19日及び1月23日、杉並区議会スポーツ推進議員連盟の一員として、2箇所の総合型地域スポーツクラブ(*1)を視察しました。

(*1)幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する、地域密着型のスポーツクラブ

<12月19日:調和SHC倶楽部(調布市)>

調和SHCは、統廃合によって生じた小学校跡地及び隣接する小学校を主な拠点としており、活動場所には比較的恵まれています。

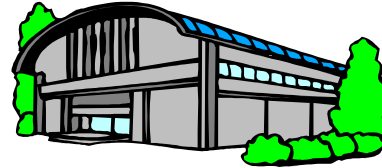
また、「スポーツを楽しむ」だけでなく、「文化」「健康」活動にも取り組んでいること、及び、「ジュニアサポート」「シニア友の会」という形で小学生や年配の方が参加しやすい環境としているのが特徴です。

<1月23日:コミュニティネットSSC大泉(練馬区)>

SSC大泉は、大泉学園町体育館を拠点に活動しており、結果として、プールでの活動を含め室内スポーツが種目の大半を占めています。

トップアスリートを中学校の部活指導に派遣する等の事業にも取り組んでいます。

両クラブともNPO法人として活動しており、**試行錯誤を重ねながら、地域の活性化を目指している**のが伝わってきました。スポーツを通じた杉並の地域活性化にはどのような形が適しているのか、引き続き区議として、また地域の一員として検討していきたいと思います。



地域での活動

読み聞かせ

12月18日(火)、小学校にて1年生を相手に「読み聞かせ」を行いました。

今回選んだ本は、『クマさんのドーナツ』。(作・絵:みやざきひろかず。出版社:ひかりのくに。)選んだ理由は、「子供達がきっと笑ってくれるから」です。

案の定(?),笑ってほしいところで子供達から笑いがおき、その後も喰い入るように絵本に見入っ



て(聞き入って)くれました。

こうした機会を通じて、まずは**子供達に、本を好きになってほしい**ですね。

私自身も、今後も機会があれば「読み聞かせ」に携わっていきたいと思います。

節分祭

2月3日(日)、富士見丘駅前商店街通りにて「第9回富士見丘節分祭」が行われました。

豆まきや防犯パレード等と

ともに、子供達によるダンスの演舞もありました。参加してくれたのは、幼稚園児のチームから中学生のチームまで、計4チーム(私が普段教えている、子供達の「よさこいソーラン節」踊りのチームも含まれています)。

これら4チームによる演舞に関しては、司会進行等も務めさせていただきましたが、各チームの引率の方々も含め、「地元での演舞」ということで、皆さん非常に協力的でした。

また、中学生のインタビューの受け答えが非常にしっかりしていたのが、印象的でした。

年齢を問わず、こうした**子供達が自己実現できる場を作ることこそ、大人の役割**であると改めて感じました。



杉並区議会議員(無所属) 岩田いくま 区政報告

第38号(平成25年春号)

発行:岩田いくま 〒168-0082 杉並区久我山5-24-30-103

TEL/FAX:03-3247-8660 E-Mail:ikuma@gakushikai.jp

HP:http://ikuma-iwata.net (←毎日更新しています!)

岩田いくま(生真)略歴:昭和46年(1971年)生。都立西高、東京大学卒。外資系コンサルティング会社勤務を経て、平成15年5月より杉並区議会議員。平成23年5月より3期目。

趣味:バレーボール(大学時代は母校で部活動のコーチを行う)、読書。

家族:妻、長男(10歳)、長女(7歳)、次男(5歳)。



財政悪化と課題の先送り、長期展望の欠如 ～平成25年度予算の問題点を考える～

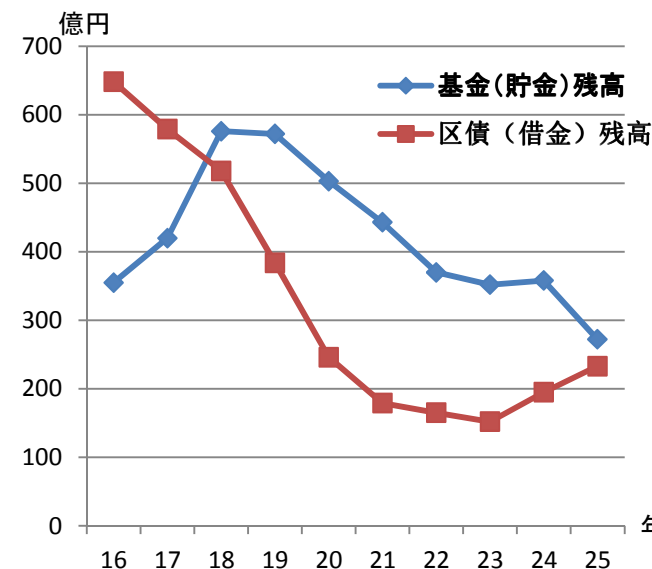
平成25年度杉並区一般会計予算が、3月21日の区議会において賛成多数(賛成:29名、反対:16名、棄権:1名)で可決されました。

しかしながら、この予算には主に下記のような問題点があるとの考えから、**私自身は反対**をいたしました。(詳細は、次頁以降の「一般質問」をご覧ください)

問題1:財政悪化傾向が顕著

平成23年度を境として、区債(借金)残高が増加に転じています。

基金(貯金)残高については、当初予算で86億円取り崩ししており、仮に年度途中での積み増しを近2年と同額程度行ったとしても、横這いどまりです。



問題2:施設再編整備計画の策定先送り

昨春策定した「杉並区実行計画(平成24～26年度)において、**平成24年度に策定**」とされていた**施設再編整備計画が、25年度予算では「25年度に策定着手」と大幅に先送り**されました。

問題3:計画なき行財政改革への取組み

昨春、「行財政改革基本方針」は定められましたが、**具体的な行動計画は相変わらず策定されておられません**。

なお、平成25年度の行財政改革効果額は15億円強が見込まれていますが、そのうち**4割超が土地売却益や基金統廃合に伴う繰入金等、いわゆる「埋蔵金」をかき集めたもの**となっています。

問題4:中長期を見通した財政計画の欠如

「正確さに欠ける」との理由から、実行計画と連動した**3か年の財政計画しか策定されておられません**。これでは、**目先の課題解決だけが優先され、将来を見通した“経営”を行うことは、とてもできません**。

区政や岩田いくまに対する質問・ご意見・ご要望をおきかせください。

FAX:03-3247-8660 もしくは E-Mail:ikuma@gakushikai.jp



上記のような問題があるなかで、「次世代に夢と希望を拓く予算」「持続可能な財政運営」と言われても、私は賛同しかねます。

「未来への責任」をしっかりと自覚し、「現在の区民に対する福祉の向上」だけでなく、「将来世代に対する福祉の向上(少なくとも、将来世代に借金というツケを回さない)」を考えた予算としなければなりません。

平成25年区議会第1回定例会の2日目(2月15日)、「財政運営と施設再編整備」「杉並区実行計画(平成24～26年度)初年度の取組み」をテーマに一般質問を行いました。また、3月7日(木)、12日(火)、14日(木)、15日(金)に、予算特別委員会において質問を行いました。以下、その一部を取り上げます。

一般質問 ①

(岩田いくまの質問)

杉並区では平成18年度～21年度まで、区債発行(借金)をせずに区政運営を行ってきた。

現区長となった平成22年度以降、毎年区債を発行し、平成23年度以降は、**区債残高は右肩上がり**である。**区債残高の上限はどのように考えているのか。**

(区の方針)

区財政の状況や各種財政指標を勘案し、各年度の予算編成の中で判断する。



借金の上限については、検討されていないと言わざるをえません。

(岩田いくまの質問)

平成22年の『施設白書』によれば、**平成50年までの30年間で区施設の改築・改修費に2,766億円**かかる。内訳は、平成20年代に505億円、30年代に944億円、40年代に1,316億円と、後代ほど負担が重い。また、平成50年代に築50年を迎える施設も区施設の約1/4を占める。

こうしたなかで**施設整備基金(貯金)が底をつきそうであるが(平成25年度末残高は27億円)、今後どうするのか。**

(区の方針)

基金全体の中で、増額に努めてまいりたい。



「施設整備基金」をどうするのか、運用方針・積立方針が全く示されませんでした。これで「持続可能な財政運営」と言われても、私にはとても同意できません。

(岩田いくまの質問)

昨年策定した実行計画(平成24～26年度)において、施設再編整備計画は「平成24年度に策定、25年度に推進」とされていたが、25年度予算において「25年度に策定に着手」と**大幅に先送り**になっている。率直にいうと理解に苦しむが、どういうことか。

(区の方針)

計画策定に向けた取組みは着実に進めてきた。25年度中には「中間のまとめ」を行う。

(岩田いくまの再度の質問)

26年度早々に現区長の任期は満了する。25年度のいつ「中間のまとめ」を行うのか。

(区の方針)

秋頃を目途に考えている。



実行計画初年度から大幅な遅れが生じているようでは、実行計画の存在意義自体も問われてきます。

なお、施設再編整備計画以外にも、まちづくり基本方針や産業振興計画の改定、中小企業振興基本条例の制定等も遅れています。こうした点について問い質したところ、区長は、「一般論ではあるが、行政の取組みというものは、目標実現に向けて計画的に行われることは大切であるが、もう一つ重要なことは、多少遠回りになっても、議論を重ねて、充実した内容にしていこうと考えている」と述べました。

しかしながら、**そもそも「自分達が作った(決めた)スケジュールである」ということを、どう考えているのでしょうか？**

区長は常々「ボトムアップ」という言葉を好んで使います。しかし、ボトムアップによる内容の充実を理由に**自ら定めた期限を軽視するような姿勢は、執行機関のトップの責任からみていかなるものか**と考えます。

一般質問 ②

(岩田いくまの質問)

いくつかの自治体では、「健全な財政運営に関する条例」を制定している。これらの条例に共通する内容として、**中長期の財政計画策定を義務付け**ており、財政運営の将来予測性を高めている。

①こうした条例に対する見解を問う。

②条例の有無にかかわらず、単年度の予算(案)提出時に、中長期の財政計画ないし展望を示すことが必要と考えるが、見解を問う。

(区の方針)

①予算編成権は区長に専属するものであり、条例の内容によっては、長の権限を制約し、必要な予算計上に支障をきたすことも想定されるため、慎重に判断すべきと考えている。

②長期的な財政展望を描くことは極めて難しく正確さに欠けるため、財政計画は、実行計画と同様に3か年の計画としている。



3年先までしか見据えていないのに、本当に「持続可能な財政運営」ができるのでしょうか。**長期的な展望をしっかりと持った上で常にそれを見直していく、というのがありべき姿**だと私は考えます。

* 一般質問の様子は、杉並区議会公式ホームページの本会議録画中継(下記)でご覧いただけます。

<http://www.gikai.city.suginami.tokyo.jp/vod/vodtop.htm>

予算特別委員会

次のテーマを取り上げ、質問を行いました。

<7日>

- ・富士見ヶ丘駅周辺駐輪場
- ・地方債充当率(地方債発行における、区独自基準の設定)

<12日>

- ・職員提案制度
- ・区的意思決定機関(経営会議及び政策調整会議)

<14日>

- ・特別障害者扶養信託に係る贈与税の非課税措置
- ・ゆうゆう館の協働事業

<15日>

- ・緊急風疹対策
- ・富士見丘小学校の「新しい学校づくり周辺環境調査」
- ・子ども安全連絡網(災害時緊急メール網)
- ・教員の独自採用(師範館卒塾生)

区長は「ボトムアップによる区政運営」を標榜していますが、その象徴である「職員提案制度での提案件数」は、

<新規提案>

平成20年度:62件→平成24年度:16件

<改善提案>

平成22年度:1,834件→平成24年度:1,315件

と、残念ながら減少しています。

トップの発言と現場の受け止め方に乖離を感じるのは、私だけでしょうか。

昨年から利用が始まりましたが、60回以上活用している学校がある一方で、**一度も利用していない学校が小学校で2校、中学校で5校**ありました。

教育委員会の運営基準では、災害時でなくとも利用可能としており、各学校の判断とはいえ、有効活用を求めました。



* 予算特別委員会の様子は、杉並区議会公式ホームページの委員会録画中継(下記)でご覧いただけます。

http://www.gikai.city.suginami.tokyo.jp/vod_iinkai/vod_iinkaitop.htm